富山・弓庄城跡（ゆみのしょうじょう）

1 所在地　富山県中新川郡上市町舘

2 調査期間　第四次調査　一九八三年（昭58）四月～一二月

3 発掘機関　上市町教育委員会

4 調査担当者　高慶　孝・酒井重洋・宮田進一・松島吉信

5 遺跡の種類　城館跡

6 遺跡の年代　中世～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

弓庄城は、戦国時代に新川郡一帯を支配した土肥氏の居城で、白岩川右岸段丘上に構築された連郭式平城である。東側を山地に、西側を白岩川に挟まれた南北に長い平面形をなし、その規模は南北約六〇〇m東西約一五〇mに及ぶものと推定されている。

（魚津・五百石）

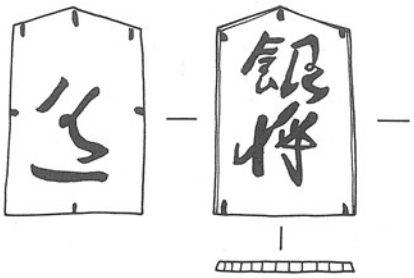
本遺跡では圃場整備事業に伴う発掘調査が一九八〇年から五カ年にわたって実施され、掘立柱建物・柵・井戸・濠・墓・石垣・集石などの遺構に伴い、土器・陶磁器類（土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・中国陶磁など）、木製品（下駄・櫛・漆器・曲物・箸・建築部材など）、石製品（硯・石臼・石塔など）、金属製品（簪・煙管・小刀・釘・鉄砲玉・鉄鏃・武具破片など）が多量に出土した。

今回報告する木簡は、一九八三年に実施された第四次調査において、本丸南側にあたるE地点一区の素掘りの井戸SE〇一五の底部から出土したものである。本調査区の遺構群は調査時の所見から概ね四期に分けられているが、SE〇一五はこの地区が弓庄城の郭として存在した最終段階である第三期（一六世紀）に属する。

8 木簡の釈文・内容

(1)　・「銀将」
　　・「金　」　　28×19.5×2　061

薄板を長五角形に切り出した将棋の駒である。「銀将」「金」の墨書のほか、表裏両面ともに駒の進行方向を示す点が墨で付けられている。



9 関係文献

上市町教育委員会『富山県上市町弓庄城跡第四次緊急発掘調査概要』（一九八四年）

（三浦知徳）